

正誤情報

このたびは森北出版株式会社発行の書籍をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。下記の書籍につきまして誤りのある箇所がございましたので、お詫びし訂正させていただきます。

2020年1月29日 森北出版株式会社 生産マネジメント部

タイトル

例解図説 オートマトンと形式言語入門

正誤対象

お手持ちの書籍の刷数をお調べのうえ、下の表をご覧ください。正誤表内の一番左に「対応刷数」という列がございます。該当する刷数の訂正情報をご参照下さい。

なお、刷数につきましては下記「刷数の調べ方」をご参照ください。

お持ちの本の刷数	
1	対応刷数 1 より 2 までをご参照ください
2	対応刷数 2 をご参照ください
それ以降	現在把握している訂正情報はございません

刷数の調べ方

本の一番後ろのページ(広告等除く)に下図のようなページがございます。ご参照いただき、お持ちの本の刷数をお調べください。

著者略歴
○○○○(●●●●●●●●)
1980年 ××大学大学院修士課程修了
1980年 ××大学助手
1990年 ××大学助教授
2000年 ××大学教授

編集担当 ■■■■(森北出版)
編集責任 ◆◆◆◆(森北出版)
題 名 ○○○○
印 刷 ▲▲印刷
製 本 ▼▼製本

やさしく学べる△△工学(第2版) ◎○○○2014
2001年○月○日 第1版第1刷発行 【本書の印刷形態を詳す】
2007年○月○日 第1版第●刷発行
2010年○月○日 第2版第1刷発行 ←
2014年○月○日 第2版第●刷発行

著 者 ○○ ○○
編行者 森北 博巳
発行者 森北出版株式会社
東京都千代田区墨田1-4-11 (〒100-0071)
電話 03-2026-6341/FAX 03-2026-8709
http://www.morikita.co.jp/
日本書籍協会・自然科学書会員

※訂正箇所はお知らせいたします。
Printed in Japan/ISBN978-4-627-xxxx-x

日付の最も新しい行に記載された数字がお持ちの本の刷数となります

対応刷数	頁	行数, 図・表・式番号	誤	正
1	4	図 1.5		200 円
2	8	下から 2 行目	$\bigcup_{i \in \{1, \dots, n\}} A_i \dots$	$\bigcup_{i \in \{1, \dots, n\}} A_i \dots$
1	9	例 1.4 4 行目	$\dots, q(q_1) = \{q_1, q_3\}, q(q_2) = \dots$	$\dots, \delta(q_1) = \{q_1, q_3\}, \delta(q_2) = \dots$
1	12	例 1.8 3~4 行目	$\dots, q(q_1) = \{q_1, q_3\}, q(q_2) = \dots$	$\dots, \delta(q_1) = \{q_1, q_3\}, \delta(q_2) = \dots$
1	16	13 行目	$\bullet \sum^*$ 上の言語としては, ...	$\bullet \sum$ 上の言語としては, ...
1	52	図 2.51	<p>右図のように左下の q_D を二重丸にする</p>	
1	53	図 2.53		$2R'3$ $3R'2$

1	53	図 2.54		<p>※円中央の破線を削除</p>								
1	60	下から 9 行目	…も有限指数指数をもつ。(証明終)	…も有限指数をもつ。(証明終)								
1	61	6, 8 行目	MinimumDFA (2箇所)	Minimum_DFA								
1	83	14 行目	<u>スタックが空になるときに現れる。</u> 初期記号ともいう。	初期記号ともいう。								
1	84	例題 4.2 解答例(2) 最下行	$\langle (q_3, cc, AAZ_0) \vdash_M (q_3, c, AZ_0) \vdash_M (q_4, \varepsilon, Z_0) \vdash_M (q_5, \varepsilon, \varepsilon) \circ \rangle$	$\langle (q_3, cc, AAZ_0) \vdash_M (q_4, c, AZ_0) \vdash_M (q_4, \varepsilon, Z_0) \vdash_M (q_5, \varepsilon, \varepsilon) \circ \rangle$								
1	93	下から 2 行目	$A_1 \rightarrow 1 A_2, \quad A_1 \rightarrow 1 A_1 A_2, \dots$	$A_1 \rightarrow 1 A_2, \quad A_1 \rightarrow 0 A_1 A_2, \dots$								
1	94	9 行目	…あとは, $N = \{A_1, A_2\}, \dots$	…あとは, $N = \{Z, A_1, A_2\}, \dots$								
1	97	下から 12 行目	…還元の様を表 4.7 に示す. …	…還元の様を表 4.3 に示す. …								
1	97	下から 5~2 行目	ステップ 5 の記述を右と差し替え	ステップ 5 でとりうる動作は, 生成規則 $E \rightarrow T$ の適用による還元か, $T \rightarrow T \times F$ を適用するためのシフトである. そのどちらかかを決定するために 1 記号+を先読みし, 適用できる規則が $E \rightarrow T$ のほうだと判断し, その結果, 還元を選んでいく. これは, 「 $E \rightarrow T$ により還元できるのは, T を E に還元したとすると E の直後に出現しうる終端記号は \$ か + か, あるいは) のとき」という G の導出に関する性質によっている.								
1	98	表 4.3	ステップ 9, 10 を右のように変更	<table border="1"> <tr> <td>9</td> <td>$\times 1) \\$</td> <td>$(E + F$</td> <td>$T \rightarrow F$ により還元. F がハンドル</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>$\times 1) \\$</td> <td>$(E + T$</td> <td>1 記号先読みして次動作を決定 シフト</td> </tr> </table>	9	$\times 1) \$$	$(E + F$	$T \rightarrow F$ により還元. F がハンドル	10	$\times 1) \$$	$(E + T$	1 記号先読みして次動作を決定 シフト
9	$\times 1) \$$	$(E + F$	$T \rightarrow F$ により還元. F がハンドル									
10	$\times 1) \$$	$(E + T$	1 記号先読みして次動作を決定 シフト									
2	98	表 4.3	ステップ 20 行, 入力バッファ列の「\$」を取って空白にする									
1	106	15 行目	…スタックトップの記号 A , つぎの状態 q_1 の 3 つ…	…スタックトップの記号 A , 「将来」の状態 q_1 の 3 つ…								

1	106	下から 5行目	$\dots \rightarrow a[q'B_1q^{(1)}][q^{(2)}B_2q^{(3)}]\dots$	$\dots \rightarrow a[q'B_1q^{(1)}][q^{(1)}B_2q^{(2)}]\dots$
2	107	14行目	$S \rightarrow [q_0Z_0q_1], [q_0Z_0q_1] \rightarrow 0[q_0Aq_1][q_1Z_0q_1]$	$S \rightarrow 0[q_0Aq_1][q_1Z_0q_1]$
2	107	17行目	$P = \{S \rightarrow A, A \rightarrow 0BC, B \rightarrow 1, C \rightarrow 1\}$	$P = \{S \rightarrow 0BC, B \rightarrow 1, C \rightarrow 1\}$
2	108	13~15行目	<p>…で、その心は、現在の状態 q と現在のスタックトップの記号 A、つぎの状態 q' の3つ組 $\langle q, A, q' \rangle$ を一つの記号とみなし、一つの非終端記号を表すとするところにある。生成…</p>	<p>…で、それは、状態が q で、スタックトップが A である様相から、その後何ステップか進んで A がポップされて状態が q' になるまでの間に読み進んだ記号列、という意味合いをもつ。生成…</p>
2	108	(i) 4行目	…初期状態である。	…初期状態である。これは、 <u>グライバッハの標準形ではないが、単位生成規則なので、最終的には除去可能である。</u>
1	109	16行目と 17~18行目 の2箇所	$\dots \dots [q_k B_k q_{k+1}] \Rightarrow^{l-1} \underline{w}$	$\dots \dots [q_k B_k q_{k+1}] \Rightarrow^{l-1} \underline{aw}$
1	109	下から 8行目	$\dots \Rightarrow a [q_1 B_1 q_2]$ は、…	$\dots \Rightarrow a [q_1 B_1 q_2] \dots [q_k B_k q_{k+1}]$ は、…
1	112	15行目	… vx は a と b しか含まず…	… vx は b と e しか含まず…
1	124	10行目	…入力によっては止らない…	…入力によっては止まらない…

1	127	図 5.14	右図のように、上丸位置の a を a' に、下丸位置の b' を b に変更.	
1	130	11 行目	…文脈依存文法が満すべき規則を…	…文脈依存文法が満すべき規則を…
2	136	下から 5 行目	…, $L_1^* = \{\varepsilon\} \cup L_1 \cup L_1 \cup \dots$	…, $L_1^* = \{\varepsilon\} \cup L_1 \cup L_2 \cup \dots = \dots$
1	137	7 行目	Exercise 6.1 言語の階層構造	Exercise 6.1 言語クラスの閉包性
1	137	11 行目	…, $L_1 \cap L_2$ は…	…, $L_1 \cap L_2, \Sigma^* - L_1$ は…
1	138	7 行目	…1 対 1 対応と背理法を述べる.	…1 対 1 対応とカントールの対角線論法を述べる.
1	145	12 行目	lf(Mb(M, x) == 0)	lf(Mb(M, x) == 1)
1	145	18~19 行目	…を判断させ、それが 0 を返してくれば無限ループし、1 を返して…	…を判断させ、それが 1 を返してくれば無限ループし、0 を返して…
1	145	下から 5~4 行目	… M_i が x_i に対して停止しないとき M_d は停止し、 M_i が x_i に対して…	… M_i が x_i に対して停止しないとき M_d は停止し、 M_i が x_i に対して…
1	155	10 行目	…を取ると、 $ uv \leq u$	…を取ると、 $ uv \leq n$

1	157	5 行目	[解答例] $\{0^i 11^j \mid i, j = 0, 1, 2, \dots\}$	[解答例] $\{0^i 111^j \mid i, j = 0, 1, 2, \dots\}$
1	158	1 行目	…の数が等しい記号列が受理され, …	…の数が等しい記号列が受理され, …
2	158	3 行目	$L(M) = \{a^i b^j c^k \mid i = 1, 2, 3, \dots, i = j \text{ または } i = k\}$	$L(M) = \{a^i b^j c^k \mid i, j, k = 1, 2, \dots, i = j \text{ または } i = k\}$
1	158	Exercise 4.4 (2)の 6 行目	$P = \{S \rightarrow 0S0, S \rightarrow 1S1, S \rightarrow A, A \rightarrow \varepsilon\}$	$P = \{S \rightarrow 0S0, S \rightarrow 1S1, S \rightarrow 00, S \rightarrow 11\}$
1	160	図 5.14 (再掲)	右図のように, 上丸位置の a を a' に, 下丸位置の b' を b に変更.	
1	161	下から 5 行目	… 一方, $L_1 \cup L_2, \Sigma^* - L_1$ は文脈 …	… 一方, $L_1 \cap L_2, \Sigma^* - L_1$ は文脈 …